

平成 23 年 8 月 16 日 (月)

## 下水道展 2011 東京 クイズラリー報告書

**名称：**水と食物の循環 クイズラリー

**目的：**小学生や子供連れの来場者を中心に、「水と食べ物のリレー」を切り口としたストーリーに沿って下水道展の各ブースをまわってもらう企画。これにより、一般市民向けの P R をより分かりやすく、より楽しく、より効果的なものとする。また、クイズラリーでブース間をつなげることにより、見学者の流れを形成し、下水道展そのものを盛り上げていく。

**実施期間：**平成 23 年 7 月 26 日 (火) ～29 日 (金)

**場所：**東京ビッグサイト (東京都江東区有明 3-21-1)

**体制：**日本下水道協会 (主催)、東京都下水道局、小平市環境部下水道課、埼玉県下水道局／財団法人埼玉県下水道公社、福島県会津坂下町建設部、下水道高度処理促進全国協議会、地方共同法人日本下水道事業団、財団法人下水道新技術推進機構、公益社団法人日本下水道管路管理業協会、社団法人日本下水道処理施設管理業協会、社団法人全国上下水道コンサルタント協会、NPO 法人 21 世紀水倶楽部 (企画協力)

**実施内容：**水と食物のリレーについて、それをつなぐ大事な役割を担っているのが下水道だということを知ってもらうため、水と食物の循環のストーリーを基本としてクイズラリーを実施する。本クイズラリーでは「伝わる言葉」を使うことを心掛けるとともに、各ブースの実験などを効果的に組み合わせることで、下水道の働きや課題などを実感してもらう仕組みとする。これにより、私たち一人ひとりが水や食物の循環のランナーであることに気づいてもらい、下水道にどうバトンを渡すのかを考えてもらうきっかけとする。このような延長線上に「学べる下水道展」の実現をめざす。

**会員活動：**次頁の表の通り、21 世紀水倶楽部みづなぐプロジェクトチームの中山のほか、亀田泰武理事長、清水治副理事長、佐藤和明理事、渡部春樹理事、中西正弘氏の 5 氏にボランティアでクイズラリーのお手伝いをいただいた。その内容はおもに、ラリーポイントのうち分かりにくい箇所(東京都下水道局から水コン協までのルート、水コン協から管路管理協までのルート)を案内していただくというものである。

### ボランティアメンバーと活動表

	26日		27日		28日		29日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
中山勲	○	○	○	○	○	○	○	○
亀田泰武氏							○	○
清水治氏								○
佐藤和明氏					○			
渡辺春樹氏				○		○		
中西正弘氏		○		○				

クイズ内容：全11問を出題（別添資料参照）。全問正解の参加者には下水協をはじめ参加団体が用意した景品（蛍光ペンなど）をプレゼントした。（間違っても何度もチャレンジできるので、参加者全員に景品をプレゼントした）

参加者数：クイズラリーの参加者数は下表の通り2528人。昨年の名古屋の実績（1685人）よりも約900人増加した。保護者はクイズ用紙を受け取らなくても実質的に子供と一緒にクイズに参加した格好であり、参加者は厳密にいうと集計値よりも多いと思われる。

#### 下水道展'11 東京登録入場者数とクイズラリー参加者

	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	4日間合計
官庁・大学・国公立研究機関	65	67	60	42	234
都道府県・市町村・公団・公社	729	1284	1386	1239	4638
商社・コンサルタント	2168	4816	5592	4548	17124
業界(商社・コンサルタントを除く)	11075	13749	14305	14705	53834
その他(一般市民・学生)	565	842	978	821	3206
外国人	248	137	66	38	489
報道関係者	59	32	31	26	148
小計	14909	20927	22418	21419	79673
その他(親子連れ)	275	253	423	267	1218
合計	15184	21180	22841	21686	80891
クイズラリー参加者	117	757	997	657	2528

※下水道協会は上表のように、親子連れとその他の一般市民を分けてカウントしている。二日目以降、親子連れよりもクイズラリー参加者が多いのは、茨城県などからツアーで来場いただいた市民の参加があったため。

## 実施結果

・水と食べ物の循環の絵を、昨年よりもきれいに作り直し、クイズの回答用紙の裏面にカラー印刷した。また、解答用紙はB4二つ折りとし、見開き部分に夏休みの自由研究のヒントになる情報を盛り込んだ。この用紙を参加者に持って帰ってもらったことで、改めて家でできる簡単な実験や親子の会話などを通して下水道の理解を深めてもらえたのではないかと期待する。

・クイズラリーと各ブースの連携が昨年よりもうまくいったように感じる。特に、クイズラリーのスタート地点から埼玉県ブースの実験（トイレトペーパーとティッシュペーパーを透明な管の中を流し、流れ方を比較実験するもの）への誘導はスムーズであった。また、高促協、福島県会津坂下町、東京都、管路協などが積極的に参加者をブース内に誘導していた。

・会場が昨年の名古屋よりも大きかったため、全11ポイントをつなぐ距離が長かった。特に、水コン協と管路協の間が離れており、その間をコナン（アニメキャラクター）の謎解きでつなぐ工夫をしたが、それでも迷う参加者が多かった。当初、経路に沿って床にカーペットを敷くことや、クイズラリーのポイントにバルーンを上げることなどを提案したが実現しなかった。来年以降の課題である。

・昨年と同様、大人の参加者も目立った。

・参加してくれた子供たちは、小学校1年生から6年生、中学生と幅が広がった。

・事前に小学校に出向き、下水道展を案内した。子供たちだけでなく、教師にも視察に行くよう勧めてくれた学校もあった。

・今回は、夏休みの自由研究に役立つ情報の提供にも努めた。自由研究のネタを探しに来る親子もいた。

・同時に複数の子供たちがクイズに挑戦する際、初めに解った子供が大きな声で正解を言ってしまう傾向が強い。

・子供は大人以上に真剣にクイズと向き合っていた。

・管路協でクイズラリーと併せて行っていた液状化実験に関し、学校の先生から「どうやったら実験器具が作れるのか」という問い合わせがあった。今回、下水道協会のHPに専用ページをつくり、下水道に関する実験方法の公開も行っている。こうした試みを通じ、小学校への水環境学習のサポートを図り、ひいては、下水道が授業に取り入れられる機会の増加を期待している。

・クイズラリーの運営に当たり、下水道協会が5名程度のスタッフ（いずれも女性）を配置してくれた。同スタッフは1日目よりも2日目、2日目よりも3日目と、対応の仕方が上達していた。参加者との対応の中で、自分なりの工夫を見出だし、実践していく姿勢こそが重要と改めて感じた。

・今回から小学校との連携を始めた。今後、段階的に拡げていきたい。

以上

活動スナップ

